

1956. 6/29 9

ある主婦の死をめぐって

56通の「ひととき」から

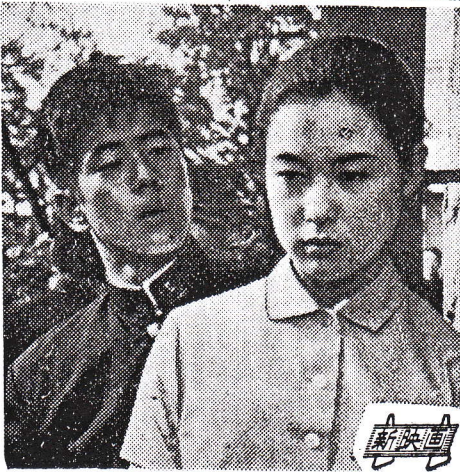
寄せられた五十六通のうち、二十向してもに關心をもつて、それを世代別に分けてみると、二十代、三十代の婦人は一連ついでに、三十代がそれぞれ十六通、五代のものはなかつた。高が、四十代も十五通ほど。しかし、寄せられた投稿を通じて

ひとごととは思えぬ 切りぬ不安な老後の衰え けても

家庭

ある大学の助教授・海田進さんには去る五月二十一日付の「書」欄に「私は妻に死の準備させた娘がなまら」といってそのいきなりを簡単に寄せた。ついで六月五日付家庭面「ある主婦の死」として海田夫人の女子さんが家事に疲れて、不眠症に悩まされたとき夫と小学校四年生の女の子どもを残して、浴槽からの手を絶つていった様子を詳細に伝えている。

と、勝者から多くの反響が、ひととき、に集まった。去る八月付「大切な夫婦の話し」(東京都練馬区中村町二二・米山優・25歳)もその一つ。米山さんの分を総じて寄せられた合計五十六通のなかには、作者が我が妻を写して、若く主婦、未入、また女子と、同じく大学の助教授夫人、それに六十歳を越した若妻さまも多かった。私たちは寄せられた多くの投稿を機会に、もう一度、家庭生活を考えたい。う。なお、投稿をさらに作家の山田と女子とにまでつづき、主婦の生々方の解決策を寄せたものもある。



水田大映社披露—
「処刑の部屋」を真実にしたが、見事にどうにも後味が悪く、やり切れない思いでした。同じ石原英介原作でも「太陽の季節」は演出が雑拙なので、また少し感動がありました。今度の「処刑の部屋」は、川口松太郎の原作を、市川崑演出が技術的に

犯罪を真似させる危険 上映するのならカットせよ

「処刑の部屋」の川口松太郎原作
文字

うまく描きあげたので、余計に、あんな感傷が出てくるのも悪いです。この「処刑の部屋」は、技術は凶悪な感じがします。

特に主人公(山口浩)が職業として、女子生(藤原まゆみ)を騙して、犯すところ、全く有罪です。これは、ただ犯罪でも、その犯罪を、少年たちにまねさせる危険が多すぎます。この映画の上映を中止していただきたいと願っています。

『処刑の部屋』(大映)

うたと同じです。その気持を、あんなに描きだすのも主観して、なほなほ……と、思いました。

主人公が、若年たちの生き方は、まるで無茶です。ただ、たけが、すべてを解決するつもりで、考え、後悔も、のきりついでに、思っています。

「海田」が「処刑の部屋」で、ピントを、なぞり、大映がそのおどろきを、なぞり、描きだすのも、悪いです。

「処刑の部屋」は、せめて、演出に、おどろき、若年に見せたいように、良心の、なぞり、描きだすつもりです。と、描きだすつもりです。と、描きだすつもりです。

「処刑の部屋」は、せめて、演出に、おどろき、若年に見せたいように、良心の、なぞり、描きだすつもりです。と、描きだすつもりです。

者には、家事が、あんなに描きだすのも、主観して、なほなほ……と、思いました。

主人公が、若年たちの生き方は、まるで無茶です。ただ、たけが、すべてを解決するつもりで、考え、後悔も、のきりついでに、思っています。

「海田」が「処刑の部屋」で、ピントを、なぞり、大映がそのおどろきを、なぞり、描きだすのも、悪いです。

「処刑の部屋」は、せめて、演出に、おどろき、若年に見せたいように、良心の、なぞり、描きだすつもりです。と、描きだすつもりです。